

# 経営改善及び連携・活用に関する取組評価

## (令和5(2023)年度)

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市シルバー人材センター	所管課	健康福祉局高齢者在宅サービス課 健康福祉局保健医療政策部生活衛生担当
----------	----------------------	-----	---------------------------------------

### 経営改善及び連携・活用に関する方針

<b>法人の概要</b>	<p>1 法人の事業概要 市内の一般家庭や公共・企業などから高齢者向けの仕事を受注し、これを生きがいや健康のために働きたいという高齢者に就業の場として提供する事業などを行います。また、川崎市葬祭場の指定管理者として管理運営業務を行います。</p> <p>2 法人の設立目的 健康で働く意欲を持つ高齢者の希望に応じた臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会を確保し、高齢者の生きがいの充実、福祉の増進並びに社会参加の推進を図り、もって高齢者の能力を活かした活力ある地域社会づくりに寄与するとともに、あわせて市民サービスの向上に寄与することを目的とします。</p> <p>3 法人のミッション 高齢者のための臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業等を通じて、高齢者の生きがいの充実、福祉の増進及び社会参加の推進を図るために必要な事業を行います。また、指定管理者として、川崎市が設置する葬祭場を円滑かつ適切に運営します。</p>		
<b>本市施策における法人の役割</b>	<p>高齢化の継続的な進展により、超高齢社会を迎える中、高齢者が培ってきた知識や経験を活かして、身近な地域の社会活動に参加することの重要性が増している状況にあります。</p> <p>シルバー人材センターは、働く意欲のある高齢者の就業機会の確保、就業を通じた生きがい・健康づくりの促進、社会参加の場の提供等を通じて、高齢者の社会活動を促進する役割を担っています。</p> <p>また、葬祭場の運営には、施設の用途・特性を踏まえた、公益性・持続性の確保が求められることから、公益財団法人として適切な運営を確保するとともに、施設の管理運営を担うことにより、高齢者を対象とした新たな就業機会の確保を通じ、市民サービスの向上が見込まれています。</p>		
<b>法人の取組と関連する市の計画</b>	市総合計画上関連する政策等	政策	施策
<b>現状と課題</b>	関連する市の分野別計画	政策1-4 誰もが安心して暮らせる地域のつながり・しくみをつくる 政策1-6 市民の健康を守る	施策1-4-3 高齢者が生きがいを持てる地域づくり 施策1-6-3 健康で快適な生活と環境の確保
<b>取組の方向性</b>	<p>1 シルバー人材センター事業の現状 シルバー人材センター事業は、「自主・自立・共働・共助」の理念のもと、60歳以上の健康で働く意欲のある高齢者に地域に、密着した臨時的かつ短期的、その他の軽易な作業を家庭、企業、公共団体から受注し、会員に提供することにより、より多くの高齢者の方に働くことを通じて健康的に生きがいを持って地域に貢献してもらうことを目的として始めました。</p> <p>その後、本格的な高齢社会を迎え、少子高齢化による生産年齢人口の減少が続く中、年金の支給開始年齢の引き上げや、企業等における定年延長など、高齢者を取り巻く環境が多様化したことで、就業能力の高い会員を確保することが困難になったことに加え、安定した労働力を提供することが求められ、適正就業の推進や新型コロナウイルス感染症による影響もあって、契約金額が減少しております。</p> <p>2 シルバー人材センター事業の課題 職員のスキルアップ等による効率的な事業推進体制を図ること、登録会員数の増加及び受注増による契約金額の増額を最優先課題としています。</p> <p>3 葬祭場運営事業の現状 かわさき北部斎苑の大規模改修工事も完了し、工事期間中制限していた火葬受入れ件数が従前の件数に戻ったため、概ね火葬需要に対応している状況です。しかしながら、南北斎苑では、空調設備をはじめ一部の設備が老朽化しているため、不具合の発生が多くなってきております。</p> <p>4 葬祭場運営事業の課題 高齢者人口の増加に伴い、今後更なる火葬需要の増加が見込まれることから、火葬受け入れ件数の増加への対応や設備の不具合の解消に向けて、利用者へのサービス向上や安定的・継続的な事業運営を行うための取り組みが必要となります。</p>		
<b>取組の方向性</b>	<p>1 経営改善項目 限られた経営資源を効果的・効率的に活用するため、職員のスキルアップ等による効率的な事業推進体制の構築に努めるとともに、市所管課、たいJOBセンター、キャリアサポートかわさき等の関係機関と情報交換会などによる連携を図りながら、シルバー人材センターの特徴である「臨時的かつ短期的、その他の軽易な仕事」を希望する高齢者に対する就労を促進することなどを通じて、契約金額の増額を図ります。</p> <p>2 連携・活用項目 シルバー人材センター事業の認知度向上に向けた広報活動を強化します。また、会員になり得る高齢者の掘り起こしを行うとともに、他センターと比較して、契約金額の公民比率が低率であるため、川崎市などの公共団体部門を中心に就業開拓活動をしていきます。</p> <p>葬祭場運営事業については、市及びシルバー人材センター・富士建設工業共同体において、定期的な会議等を通じ緊密な連携を図るとともに、火葬需要の増加への対応に向けて、南北斎苑の連携による受入れ体制の確保や、組織運営体制の維持を図ります。</p>		

# 本市が法人に求める経営改善及び連携・活用に関する取組

## 4カ年計画の目標

川崎市シルバー人材センター「第3期基本計画(令和2年～令和6年度)」を基本とした事業活動を展開し、組織体制の整備、職員の資質向上等に努めつつ、シルバー人材センターの認知度向上及び登録会員数、就業者数の増加を図ります。  
また、他都市と比較して低率となっている公共団体部門を中心に、訪問営業活動などの就業開拓に取り組むことで、契約金額の増額を図り、正味財産の適正な水準を保持してまいります。  
葬祭場運営事業については、火葬件数の確保を図り、葬家や葬祭事業者等の斎苑利用者に対して、一層の利便性やサービスの向上に努めてまいります。

### 1. 本市施策推進に向けた事業取組

取組No.	事業名	指標	現状値 (令和3 (2021)年度)	目標値 (令和5 (2023)年度)	実績値 (令和5 (2023)年度)	単位	達成度 (※1)	本市による評価 ・達成状況 (※2) ・費用対効果 (※3)	今後の取組の方向性 (※4)
①	シルバー人材センター受託事業	シルバー人材センター登録者数	6,038	6,820	6,515	人	b	C	II
		シルバー人材センターを通じて仕事に就いた高齢者の数(請負・委任事業)	1,781	1,933	1,806	人	b		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出(直接事業費)	186,055 (941,208)	180,856 (1,017,741)	135,892 (947,900)	千円	1)	
②	川崎市葬祭場管理運営事業	火葬件数の確保	12,288	12,500	13,409	件	a	A	I
		葬祭場運営会議開催数	12	12	12	回	a		
		ご意見・改善要望等への対応割合	64	70	77	%	a		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出(直接事業費)	230,770 (230,770)	247,409 (247,409)	247,409 (247,409)	千円	2)	

### 2. 経営健全化に向けた取組

取組No.	項目名	指標	現状値 (令和3 (2021)年度)	目標値 (令和5 (2023)年度)	実績値 (令和5 (2023)年度)	単位	達成度	本市による評価 ・達成状況	今後の取組の方向性
①	契約高の向上による財務状況の改善	契約金額	890,958 (110,989)	955,000	878,465 (83,837)	千円	c	C	II
		経常収支比率	101.9	97~103	100.6	%	a		
		正味財産額	259,457	230,281~ 244,525	284,334	千円	c		

### 3. 業務・組織に関する取組

取組No.	項目名	指標	現状値 (令和3 (2021)年度)	目標値 (令和5 (2023)年度)	実績値 (令和5 (2023)年度)	単位	達成度	本市による評価 ・達成状況	今後の取組の方向性
①	シルバー人材センター事業における業務の効率向上	職員の研修参加件数	6	6	11	件	a	A	I
		関係機関会議出席件数	18	25	26	件	a		
②	効率的・効果的な葬祭場運営に向けた法人内の連携	斎苑連絡会議開催数	12	12	12	回	a	A	I

(※1)【a. 目標値以上、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

(行政サービスコストに対する達成度については、1. 実績値が目標値の100%未満、2. 実績値が目標値の100%以上～110%未満、3. 実績値が目標値の110%以上～120%未満、4. 実績値が120%以上)

(※2)【A. 目標を達成した、B. ほぼ目標を達成した、C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった、D. 現状を下回るものが多くあった、E. 現状を大幅に下回った】

(※3)【(1). 十分である、(2). 概ね十分である、(3). やや不十分である、(4). 不十分である】

(※4)【I. 現状のまま取組を継続、II. 目標の見直し又は取組の改善を行い取組を継続、III. 状況の変化により取組を中止】



## 法人及び本市による総括

### 【令和4(2022)年度取組評価における本市の総括コメントに対する法人の受止めと対応】

新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に位置づけが変更され、感染した際の就業や日常生活の行動制限がなくなったことで、コロナ禍からの社会経済活動が正常化に進み始めた中、登録会員増加に係る取組として、川崎市が発行する情報誌「楽笑」への会員募集記事の掲載、川崎市が満70歳の市民に発送する高齢者特別乗車証明書に会員募集チラシの同封、区民祭におけるPR活動や、関係機関等への会員募集広告入ポケットティッシュの配布等を着実に実施するとともに、令和4年度に開始した「家族・友人紹介制度」のさらなる周知、女性会員募集ポスターの掲示、ハローワーク・区役所及び地ケアフェアでの出張入会説明会の開催、会員及び植木・除草作業等の就業を希望する一般の方向け講習会の開催、ICTリテラシー向上のためのスマートフォン講習会及び相談会の開催など、さらなる会員の増強に努めました。

新規受注先の開拓、受注拡大を図るため、公共受注実績簿を作成・活用した訪問活動や協力要請の実施、就業機会創出員による企業等への訪問活動、就業マッチング向上に係る資格を有した会員情報をホームページに公開する「スキルシート」の導入、区民祭におけるPR活動、広告掲載やチラシ配架等を着実に実施しました。

さらにインターネットを利用した会員向け情報提供サービス「Smile to Smile」を導入するとともに、「スキルシート」の公開など、シルバー人材センター事業のデジタル化推進における新規取組を行ってまいりました。

また、フリーランス新法や労働者派遣事業の業務執行体制の変更等に対応するための会議への参加、事業運営に係る近隣センターへの視察等を行うとともに、職員の人材育成の取組としてシルバー人材センター事業及び葬祭場運営事業に従事する職員の資質向上のため、各種研修会に参加しました。

葬祭場運営事業においては、指定管理者として増え続ける火葬需要に着実に応えていくため、令和5年12月より、かわさき北部斎苑における1日あたりの火葬実施件数を年度当初の24件から26件まで順次拡大しました。施設利用者の満足度向上については、職員や受託業者への研修を実施し、親切・丁寧な応接の実践に取り組んだほか、川崎市との緊密な連携により、老朽化した施設設備修繕、備品購入、北部斎苑の周辺緑地樹木の調査委託等を実施することにより、斎苑環境の向上に努めました。

### 【令和5(2023)年度取組評価の結果を踏まえ、本市が今後法人に期待すること、対策の強化を望む部分など】

シルバー人材センター事業について、「業務・組織に関する取組」は、目標を達成していますが、「本市施策推進に向けた事業取組」及び「経営健全化に向けた取組」においては、目標未達成の取組が多く、受注拡大と就業実人員の増加に向けた取組には課題があります。

定年制の廃止・定年引上げ等の社会経済状況の変化に対応し、新規受注先の開拓や受注可能な業種の拡大、人手不足分野での就業拡大等を図るため、広報・PR活動の強化・工夫のほか、技能会員の確保・育成、就労機会のマッチング等の取組強化が必要と考えます。また、事業のデジタル化によるWeb入会・Web受注の導入や、会員のデジタルリテラシー向上を図るための取組等、デジタル技術を活用した、より効率的な事業運営にも期待します。

葬祭場指定管理業務については、1日あたりの火葬受入件数を北部斎苑で2件増加させ、26件としたことや、火葬需要が増加する夏期及び冬期に友引日開苑を実施したこと等により目標を達成しています。また、利用者からの意見・要望等に対しては、本市との緊密な連携により、対応策を講じたほか、北部斎苑裏山の樹木に関する委託調査を実施し、ナラ枯れの状況や、倒木による建物への影響度等を踏まえ、今後の樹木管理の方向性を示すとともに、市との役割分担等について協議を行うなど、倒木等による被害を未然に防ぐための取組を実施し、葬祭場の安心・安全で円滑な運営の確保に寄与した取組について評価できます。

年々増加する火葬需要に対応しながら、引き続き葬祭場の安心・安全で円滑な運営の確保に取り組むとともに、これまで以上に利用者からの意見・要望等の回収に努め、それらに適切に対応するなど施設利用者の更なる満足度の向上に向け取り組んでいきたいと考えています。

## 1. 本市施策推進に向けた事業取組①（令和5（2023）年度）

事業名	シルバー人材センター受託事業
<b>計画（Plan）</b>	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗入会率を上げ、一般に事業の啓発を図るためには登録会員数の増加が必要です。</li> <li>・今後もより多くの会員に仕事を提供し、高齢者の生きがいを高め、就業機会の確保を図ることが必要です。</li> </ul>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員募集の広報活動として、市広報掲示板など各種広報媒体への記事の掲載等を充実させ、更に効果的な広報を検証し新規入会会員を獲得します。</li> <li>・就業機会創出活動による受注拡大、会員募集活動による登録会員数の増加、会員組織の活用による事務処理の効率化を図り、就業実人員数の増加を図る体制を整えます。</li> <li>・令和6年度までの目標値については、シルバー人材センター第3期基本計画に基づき設定し、その増加数から令和7年度の目標値を設定しておりますが、変化する社会状況等を見据えたシルバー人材センターの次期計画等で見直しを図ります。</li> </ul>
具体的な取組内容	<p>【指標1 シルバー人材センター登録者数】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①登録会員増加に係る取組として、地域情報誌への広告掲載、区民祭等でのPR活動などを着実に実施します。</li> <li>②コロナ禍で活動を休止していた地域班によるチラシの戸別配布の再開や令和4年度に開始した家族・友人紹介制度のさらなる周知を行います。</li> <li>③事務所に足を運びづらい地域の方等のために出張相談会の実施やインターネットを利用した入会申し込みの検討を行います。</li> </ol> <p>【指標2 シルバー人材センターを通じて仕事に就いた高齢者の数（請負・委任業務）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①会員の年齢、居住地、希望職種などの特性を考慮した就業マッチングが重要なことから、受注促進のため、区民祭等でのPR活動及び市への啓発活動等によりセンターの認知度を向上させ、就業機会の確保に努めるとともに、新規登録会員や未就業会員に対して積極的に就業紹介を実施してまいります。</li> <li>②インターネットを利用した会員・センター間の情報提供サービスの活用や会員の持つ長年培った資格・技術などの能力を登録する「スキルシート」を導入し、就業マッチングなどに役立てます。</li> <li>③植木剪定や除草業務など発注のニーズの多い業種について技術取得のための研修を行ってまいります。</li> </ol>

## 実施結果（Do）

本市施策推進に向けた活動実績	<p>【指標1関連】</p> <p>登録会員数増加に関する取組として、シニア世代向けに市が発行する情報誌「楽笑」への会員募集記事の掲載、地域情報誌「タウンニュース」への広告掲載、川崎市が満70歳の市民に発送する高齢者特別乗車証明書に会員募集チラシの同封、幸区・宮前区・麻生区で開催された区民祭において会員募集のポケットティッシュの配布、川崎アゼリアの広報コーナーへの会員募集・仕事募集のパネル展示、女性会員募集のポスター作成と関係機関へのチラシ配架などの取組を着実に実施してまいりました。</p> <p>また、コロナ禍において活動を休止していた地域班会員によるチラシの戸別配布の再開や、令和4年度に開始した「家族・友人紹介制度」のさらなる周知に加え、中原区役所・ハローワーク川崎及び川崎市役所本庁舎で開催された地ケアフェアにおける出張入会説明会の開催、インターネットを利用したWEBによる入会申し込みの試行開始など新たな取組を実施しました。</p> <p>【指標2関連】</p> <p>受注促進に関しては、区民祭におけるPR活動、区役所へのチラシ配架、就業機会創出員による企業等への訪問活動を着実に実施しました。</p> <p>また、会員が持つ専門的な資格、技能などを活かした取組としてスキルシートをホームページで公表しアピールするとともに、インターネットを利用した会員とセンター間のコミュニケーションツール（Smile to Smile）を導入しました。Smile to Smileについては令和5年度末で614名の会員が利用登録を行っております。</p> <p>発注ニーズの高い植木剪定や除草作業について、神奈川県シルバー人材センター連合会主催の講習会をそれぞれ市内で開催し就業会員の増強を図りました。</p> <p>このほか、マンション管理業務への就業を目指すための「マンション管理講習会」を開催し、必要な知識と技術習得の研修を行いました。デジタル化の急速な進展により、スマートフォンなどのデジタル機器の活用が求められている中、センター会員に対してスマートフォンの基礎知識を習得するための講習会及び相談会を開催しました。</p>
----------------	---

## 評価 (Check)

本市施策推進に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	シルバー人材センター登録者数	目標値	6,038	6,540	6,820	7,100	7,380	人
	説明 シルバー人材センターに登録した会員数	実績値		6,309	6,515			
2	シルバー人材センターを通じて仕事に就いた高齢者の数(請負・委任事業)	目標値	1,781	1,913	1,933	1,953	1,973	人
	説明 シルバー人材センターの就業実人員(請負・委任)	実績値		1,801	1,806			

指標1 に対する達成度	<b>b</b>	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2 に対する達成度	<b>b</b>	

### 法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

令和5年度の会員増加数は206人、登録会員数については、6,515人と目標値を下回りました。出張入会説明会の実施や会員募集チラシの個人宅への配布などの広報活動の取組により、新規登録会員数は昨年度を上回る529人となりましたが、令和6年2月に全会員にアンケート調査を実施したところ、それまで退会を控えていた方から退会の申し出があった結果、退会者数が323人と多くなったことや令和2年度の実績が新型コロナウイルス感染症の影響により大きく伸び悩んだことなどが影響しています。

就業実人員については、「シニア世代の暮らしに関する調査業務」の受注により実人員数は増加しましたが、多くの会員が就業していた市の放置自転車対策業務の受注が令和4年度末で終了したことが影響し、目標値を下回りました。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	<b>C</b>

行政サービスコスト		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト	目標値	186,055 (941,208)	179,099 (1,014,537)	180,856 (1,017,741)	182,637 (1,032,551)	184,443 (1,042,086)	千円
	説明 本市財政支出(直接事業費)	実績値		200,566 (990,269)	135,892 (947,900)			

行政サービスコスト に対する達成度	<b>1)</b>	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上
----------------------	-----------	--

### 法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

市補助金は、臨時雇用賃金の見直し等により令和4年度に比べ微減し、また、登録会員の就業に係る委任・請負業務の契約金額である市委託料は、建設緑政局の放置自転車対策業務が令和4年度末で終了したことにより、大幅な減となり、行政サービスコストは、目標値の範囲内となりました。

(参考)市補助金:53,265千円 市委託料: 82,627千円

本市による評価	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえた評価)	区分	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	<b>(2)</b>

## 改善 (Action)

実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II	指標1の登録会員数については、市内で開催される各種イベントへの参加や会員によるチラシ配布活動などのPRに加え、インターネットを利用したWEBによる入会申込みを本格的に開始するとともに、家族・友人紹介制度や出張入会説明会などの広報強化に努めてまいります。 指標2の就業実人員については、スキルシートの登録者を増やすとともに、インターネットを利用した会員とセンター間のコミュニケーションツール (Smile to Smile) を活用し、就業情報の提供を推進することで就業マッチングの向上を図ります。また、就業機会創出員を増員し、さらなる就業機会の拡大・受注の開拓に取り組めます。

## 本市施策推進に向けた事業取組②(令和5(2023)年度)

<b>事業名</b>	川崎市葬祭場管理運営事業
<b>計画(Plan)</b>	
<b>現状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口の増加に伴う火葬需要の増大への対応が求められています。</li> <li>・家族葬、一日葬の増加など葬儀形態の変化に伴う多様なニーズへの対応が求められています。</li> <li>※本事業は指定管理事業によるものであり、指定管理期間は、令和2年度から令和6年度の5年間となります。</li> </ul>
<b>行動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期、冬期の火葬需要が増加する時期において、友引日開苑を実施することで火葬需要への対応を図ります。</li> <li>・葬祭場運営会議を定期的に開催し、情報・課題等の共有、課題等の整理・対応及び重要事項の決定を行うとともに、効率的な葬祭場運営に努めてまいります。</li> <li>【葬祭場運営会議における主な課題解決に係る取組事例】</li> <li>新型コロナウイルス感染症で亡くなった方の火葬に関するガイドラインの策定、友引日開苑の日程、斎苑利用案内の改訂、予約システムの改修、斎苑工事に伴う臨時休苑等の対応</li> <li>・南北両斎苑の事務所窓口及び苑内数カ所にアンケート回収箱の増設や多様な方法により、利用者から大小様々なご意見・改善要望等をいただくよう努め、これに対応することでサービスの向上を図ります。</li> <li>※指定管理者の更新等によって、R7年度以降、事業別の行政サービスコスト等の目標変更の必要が生じる場合があります。</li> </ul>
<b>具体的な取組内容</b>	<p>【指標1 火葬件数の確保】</p> <p>火葬需要が特に多い北部斎苑については、今年度中に火葬件数の上限を24件から26件に引き上げ、近年増加している火葬需要に対応します。緊急措置としての友引日開苑については、夏期は8月及び9月の友引日のうち各月1日、各斎苑を開苑します。冬期は12月から2月の友引日のうち各月2日、各斎苑を開苑します。</p> <p>【指標2 葬祭場運営会議開催数】</p> <p>葬祭場運営会議については、増加する火葬需要への対応として、1日当たりの火葬枠の増加、友引日開苑の日程、また、利用者の意見・要望等に対する対応、北部斎苑駐車場の円滑な運用方法などについて協議します。</p> <p>【指標3 ご意見・改善要望等への対応割合】</p> <p>アンケートについては、パソコンやスマートフォンからもアンケートに回答できるようにしましたが、より多くのご意見をいただけるよう、アンケート用紙配布方法等を工夫してまいります。寄せられたご意見・改善要望等については、指定管理者で対応できるものは速やかに対応するなど、対応割合の向上に努めます。</p>

## 実施結果(Do)

<b>本市施策推進に向けた活動実績</b>	<p>【指標1 関連】</p> <p>・令和5年度の火葬件数は、13,409件(南部斎苑5,932件、北部斎苑7,477件)で、目標値を大きく上回りました。特に、北部斎苑では1日あたりの火葬件数の上限を12月から24件を25件に、さらに1月から26件に引き上げたことにより、昨年度の6,897件から大幅な件数増を達成することができました。新型コロナウイルス感染症で亡くなった方の火葬は、令和4年12月に火葬受入件数の制限を解除し、さらに令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類に分類されたことに伴い、一般火葬と区別なく実施しています。</p> <p>・友引日開苑については、昨年度同様夏期4日、冬期12日開苑し、友引日の火葬件数の実績は南部斎苑131件、北部斎苑180件でした。</p> <p>【指標2 関連】</p> <p>・毎月1回市との葬祭場運営会議を開催し、斎苑の管理運営に関する諸課題等について協議するとともに、市と情報を共有しながら様々な課題の解決に努めました。主な協議内容は、火葬件数増加に向けた計画、友引日開苑の日程、インボイス制度への対応、北部斎苑の帰宅困難者一時滞在施設の指定、北部斎苑周辺緑地の枯損木伐採、などでした。</p> <p>【指標3 関連】</p> <p>・アンケート回答数の向上に向けた取組の一環として、北部斎苑で令和6年2月にアンケート用紙を葬儀社を通じてご葬家に手渡しした後、返信用封筒又はWebにより回答をいただく方法を実施しました。結果は、577通を配布し、回収139件、回収率24.1%でした。これにより、令和5年度のアンケート回収数は268件となり、令和4年度の回収数(118件)を大きく上回ったほか、総合的な満足度では「極めて満足」「満足」の合計が89.3%という結果とともに、多くのご意見もいただきました。今後もさらに工夫を重ね、アンケート回収数の増を図ってまいります。</p> <p>・令和5年度にいただいたご意見・改善要望等の件数は194件となっており、そのうち指定管理者で対応可能なものが82件となっています。指定管理者で対応が可能なものについては、速やかに対応した結果、対応できた割合は77%となっています。内訳は、対応したものが63件、要望どおりに対応を行えなかったものが5件、検討中が14件となっています。</p> <p>【その他】</p> <p>・北部斎苑において、昨年度周辺緑地の枯木が倒壊し、斎苑建物に被害が出たことから、現在市の予算で枯損木の伐採を段階的に実施しています。実効的な伐採を行うため、指定管理者の予算で周辺緑地樹木の調査委託を行い、計画的な樹木伐採の基礎資料を作成しました。</p> <p>・令和5年10月19日、機器の誤操作により、北部斎苑4号火葬炉で火災が発生しましたが、直ちに消火活動を行うとともに関係所管への通報・連絡、斎苑内の避難誘導を速やかに行ったため、人的被害はなく、斎苑運営に大きな影響は生じませんでした。今後、同様の誤操作が起きた場合でも火災が発生しないよう、火葬炉の運行プログラムを改良するとともに、機器操作マニュアルの改善や火葬業務職員全員への研修を行うなど、再発防止策を徹底しました。</p>
-----------------------	--

## 評価 (Check)

本市施策推進に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	火葬件数の確保	目標値	12,288	12,400	12,500	12,600	12,700	件
	説明	実績値		13,041	13,409			
2	葬祭場運営会議開催数	目標値	12	12	12	12	12	回
	説明	実績値		12	12	12		
3	ご意見・改善要望等への対応割合	目標値	64	65	70	75	80	%
	説明	実績値		80	77			

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満  ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2 に対する達成度	a	
指標3 に対する達成度	a	

### 法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

・火葬件数の確保については、友引日開苑の実施に加え、北部斎苑で1日あたりの火葬受入件数枠を令和5年12月から1件、令和6年1月からさらに1件引き上げ、1日あたりの火葬件数枠を26件とすることなどにより目標値を上回る件数を達成することができました。

・葬祭場運営会議については、計画どおり毎月開催し、インボイス制度への対応、北部斎苑の裏山枯木倒壊への対応等の様々な課題に対応することができました。

・ご意見・改善要望等への対応については、対応できた割合が77%となり、目標値である70%を上回ることができました。また、アンケートについては、新たな試みとしてアンケート用紙を直接手渡しする配布方法を実施し、多くの回答をいただきました。今後もさらに創意工夫することで回収数の増を図っていきます。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A

行政サービスコスト		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト	目標値		236,453 (236,453)	247,409 (247,409)	246,916 (246,916)	246,916 (246,916)	千円
	説明 本市財政支出 (直接事業費)	実績値	230,770 (230,770)	236,402 (236,402)	247,409 (247,409)			

行政サービスコスト  
に対する達成度

2)

- 1). 実績値が目標値の100%未満
- 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満
- 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満
- 4). 実績値が目標値の120%以上

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

消耗什器備品費、修繕費については、老朽化した備品の更新、施設設備の小破修繕への対応のため、前年度から大きく増額となりましたが、厳格な入札、見積合わせの執行による委託費の縮減、消耗品の節約等コスト削減に努め、実績値を目標値の範囲内にすることができました。

本市による評価

費用対効果  
(「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価)

- (1). 十分である
- (2). 概ね十分である
- (3). やや不十分である
- (4). 不十分である

(1)

区分

区分選択の理由

行政サービスコストは目標値の範囲内であり、指標1「火葬件数」、指標2「葬祭場運営会議開催数」及び指標3「ご意見・改善要望等への対応割合」の全てにおいて、目標値を達成しているため。

改善 (Action)

実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止		

## 2. 経営健全化に向けた取組①(令和5(2023)年度)

項目名	契約高の向上による財務状況の改善
<b>計 画 (Plan)</b>	
現状	公共系、企業系の大口の顧客を獲得することにより契約金額が伸びる傾向があるため、多くの登録会員を就業させるための大口契約の受注拡大を図り、財源確保に努め、経常収支比率や正味財産額を保持していく必要があります。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業機会創出活動、会員募集を効果的に行い、受注件数と登録会員数を増加させることで契約金額の増につなげ、経常収支比率と正味財産額について、一定の比率と額の範囲で推移させることを目指します。</li> <li>・令和6年度までの目標値については、シルバー人材センター第3期基本計画に基づき設定し、その増加金額から令和7年度の目標値を設定しておりますが、変化する社会状況等を見据えたシルバー人材センターの次期計画等で見直しを図ります。</li> </ul>
具体的な取組内容	<p>契約高の向上による財務状況の改善 令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響等も一段落していることから、一般家庭、民間企業、公共機関等に対して、就業機会の確保と拡大に向けた積極的な訪問活動と広報活動を行い、併せて利用者のニーズに沿った新規受注の獲得に向けた次の取組に努めます。</p> <p>また、経常費用においては、令和5年10月からの適格請求書等保存方式(インボイス制度)導入に伴い費用の増額が見込まれますが、適正な執行及び経費の見直しを図るなど、収支相償に伴う経常収支比率及び正味財産額の維持に努めます。</p> <p>具体的な取組内容 【就業機会確保に向けた取組】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①他都市と比較して、公共受注の比率が低いため、市に対して新規受注の依頼を積極的に実施</li> <li>②就業機会創出員制度の拡充及び新規顧客の開拓</li> <li>③他都市シルバー人材センターの事業調査と新規事業の検討及び実施</li> <li>④会員が持つ専門的な資格、技能及び技術などを活かした就業マッチング方法の導入</li> <li>⑤労働者派遣事業等の推進</li> </ol>

## 実施結果 (Do)

経営健全化に向けた活動実績	<p>【指標1関連】 委任・請負業務の契約金額確保に向けた主な取組として、次の項目を実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①公共受注実績例を作成し、訪問活動で活用、高齢者在宅サービス課との会議で協力要請を実施</li> <li>②就業機会創出員による民間企業等への訪問(年間733件)及び令和6年度に向けた創出員配置等の拡充</li> <li>③近隣のシルバー人材センターへの視察</li> <li>④会員の資格等が記載されたスキルシートをホームページへ掲載</li> <li>⑤地域情報誌タウンニュースへの広告掲載 年2回</li> <li>⑥幸区民祭、宮前区民祭、あさお区民まつりへの参加によるPR活動</li> <li>⑦家族・友人紹介制度の実施 新規登録会員数 40人</li> <li>⑧一般家庭、民間企業に係る令和6年度事務費率改定に向けた検討</li> </ol> <p>労働者派遣事業等の推進として、新規受注時等に、発注者に適正就業の詳細についての説明を実施しました。</p> <p>【指標2及び指標3関連】 経常費用については、インボイス制度導入に伴う費用の増額を見据え、事業運営に係る費用を管理しつつ、消耗品や備品等の購入費用を必要最低限に抑えるなど、収支相償に伴う経常収支比率及び正味財産額の維持に努めました。</p>
---------------	--

評価 (Check)								
経営健全化に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	契約金額	目標値	890,958 (110,989)	943,000	955,000	967,000	979,000	千円
	説明	シルバー人材センターが受注した契約金額(委任・請負業務) (なお、目標値は請負・委任による額であり、その達成度をもって評価するものとするが、実績値に派遣※による額を別掲の補足指標として加える) ※神奈川県シルバー人材センター連合会との委任事務契約による事業		実績値	928,642 (92,092)	878,465 (83,837)		
2	経常収支比率	目標値	101.9	97~103	97~103	97~103	97~103	%
	説明	経常収益÷経常費用×100		実績値	101.5	100.6		
3	正味財産額	目標値	259,457	230,281~ 244,525	230,281~ 244,525	230,281~ 244,525	230,281~ 244,525	千円
	説明	指定正味財産+一般正味財産		実績値	277,730	284,334		
指標1 に対する達成度		C		a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上~目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上~現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載				
指標2 に対する達成度		a						
指標3 に対する達成度		C						
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)								
<p>指標1の契約金額については、受注件数は前年度実績から25件の微増となりましたが、市の放置自転車対策業務(契約金額55,132千円)が令和4年度末で終了したことや、流通業における業務縮小等が影響し、目標値には及びませんでした。また、補足指標の労働者派遣においては、流通業に就労する会員数が減少したこと、発注者における業務体制の見直し等による規模縮小等の理由から、実績は減少しております。</p> <p>指標2の経常収支比率については、契約金額が減少したこと、国庫補助金の支給額の変更等により収益減となりましたが、支出においては契約金額に連動する支払配分金等が減少したこともあり、結果として目標値の範囲に収まることができました。</p> <p>指標3の正味財産額については、経常収支差額の増加に伴い、目標値の範囲を超える結果となりました。</p> <p>(参考)国庫補助金:42,932千円</p>								
 本市 による評価	達成状況	区分		区分選択の理由				
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	C	成果指標である契約金額及び正味財産額は目標値を達成できませんでしたが、経常収支比率は目標値を達成しており、経営健全化に取り組んでいると評価できるため。				
改善 (Action)								
実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた 今後の取組の 方向性	方向性区分		方向性の具体的内容					
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II	<p>多くの会員が就業可能な大口契約の受注の減少は契約金額及び就業会員数に大きく影響しております。引き続き、新規受注の確保を行うとともに、就業機会創出員の活動の増強等による企業等への就業開拓を図ります。</p> <p>また、現在公共のみ事務費率を12%としておりますが、物価上昇やインボイス制度、ICT機器活用等のデジタル化推進に係る費用等への対応として、令和6年度からすべての受注において事務費率を12%へ引き上げるとともに、国庫補助金の増額に努め、安定した財源を確保してまいります。</p>					

法人名（団体名）	公益財団法人 川崎市シルバー人材センター	所管課	健康福祉局高齢者在宅サービス課健康福祉局保健医療政策部生活衛生担当
----------	----------------------	-----	-----------------------------------

### 3. 業務・組織に関する取組①（令和5（2023）年度）

項目名	シルバー人材センター事業における業務の能率向上
<b>計 画（Plan）</b>	
現状	事業の拡大と適正就業の推進のための事務局体制の強化には職員のスキルアップが必要不可欠です。また、関係機関との会議に出席し、常に最新の情報を確保することで、職員の業務知識の向上や効率的な事業展開に寄与できると考えます。
行動計画	より効率的な事業推進体制の強化を構築するため、内外問わず開催される関係機関の職員研修に参加し、職員のスキルアップを図ります。 また、市との連絡会議や、神奈川県シルバー人材センター連合会が主催する会議等に積極的に参加し、知り得た情報を法人で共有し、業務拡大に役立てます。 予定される職員の研修会参加内容としては、職業紹介責任者講習、労働者派遣事業責任者講習会、適正就業研修、業務システム研修などがあります。なお、参加対象職員については減少傾向にあるため、職員のスキルアップに必要な研修を厳選し、参加してまいります。
具体的な取組内容	【指標1職員の研修参加】 職業紹介事業講習会、労働者派遣事業責任者講習会、適正就業研修、業務システム研修、コンプライアンスに係る研修会等、職員のスキルアップに必要なとされる講習会、研修会について参加するとともに、近隣センターへの視察を積極的に行うなど、効率的な事業運営を行うための業務知識の向上に努めます。  【指標2関係機関会議出席】 神奈川県シルバー人材センター連合会等が主催する会議や、政令指定都市会議等へ出席し、情報交換をすることで、常に最新の状況を把握してまいります。

### 実施結果（Do）

業務・組織に関する活動実績	【指標1関連】 シルバー人材センター事業に係る各種講習会に出席し、スキルアップを図りました。 【全国シルバー人材センター事業協会主催】 職業紹介責任者講習会、労働者派遣事業責任者講習会、安全就業研修会 【神奈川県シルバー人材センター連合会主催】 職員研修、中堅職員研修、新たな契約方式に係る説明会、契約方法の見直しにかかる訪問コンサルティング 【NRI社会情報システム主催】 ユーザー研修会（2回：オンライン） 【川崎市社会福祉協議会主催】 個人情報保護等研修、地域活動促進研修  【指標2関連】 シルバー人材センター事業に関する各種会議に参加し、情報交換を行いました。 【神奈川県シルバー人材センター連合会主催】 理事会（3回）、事務局長会議（3回）、専門部会（3回）、安全対策検討部会（2回）、派遣事業推進会議等（5回）、事故防止委員会（2回）、政令市ブロック会議 【その他】 政令指定都市代表者会議、政令指定都市実務者会議、高齢者在宅サービス課連絡会議（2回）、安心見守りネット情報交換会、多摩区地域包括支援センター連絡会議、麻生区車座集会
---------------	---

## 評価 (Check)

業務・組織に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	職員の研修参加件数	目標値	/	6	6	6	6	件
	<small>説明</small> 職員のスキルアップに伴う研修会参加件数 ※R4～7年度の個別設定値:5(現状値の95%)	実績値	6	8	11			
2	関係機関会議出席件数	目標値	/	25	25	25	25	件
	<small>説明</small> 市・関係機関との会議等の出席	実績値	18	27	26			
<b>指標1 に対する達成度</b>		<b>a</b>	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満  ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
<b>指標2 に対する達成度</b>		<b>a</b>						

**法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)**

職員の研修参加件数については、フリーランス新法施行に伴う、シルバー人材センターが扱う新しい契約方法についての説明会や研修及び個人情報取扱に関する講習会等新たな研修会にも積極的に参加したことで、目標値を上回りました。  
 関係機関会議出席件数についても積極的に参加し、目標値を上回ることができました。

	区分	区分選択の理由
<b>A</b>	<b>A</b>	シルバー人材センター事業関連の研修への参加、関係機関との会議を通じた情報共有等を積極的に行うことで、職員の業務知識の向上、業務の効率化に積極的に取り組んでいると評価できるため。



	区分	区分選択の理由
<b>A</b>	<b>A</b>	シルバー人材センター事業関連の研修への参加、関係機関との会議を通じた情報共有等を積極的に行うことで、職員の業務知識の向上、業務の効率化に積極的に取り組んでいると評価できるため。

## 改善 (Action)

	方向性区分	方向性の具体的内容
<b>I</b>	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	令和6年秋頃に特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律(フリーランス新法)の施行が予定され、シルバー事業の委任・請負業務に係る契約方法の見直し等、事業運営が大きく変更となるため、これに対応するための研修会や会議等に積極的に参加し、知識や情報を得ることにより、制度変更柔軟に対応できるよう職員のスキル確保及び円滑な事業運営体制の構築に努めてまいります。

法人名（団体名）	公益財団法人 川崎市シルバー人材センター	所管課	健康福祉局高齢者在宅サービス課健康福祉局保健医療政策部生活衛生担当
----------	----------------------	-----	-----------------------------------

## 業務・組織に関する取組②（令和5（2023）年度）

項目名	効率的・効果的な葬祭場運営に向けた法人内の連携
<b>計 画（Plan）</b>	
現状	高齢者人口の増加による火葬需要の増加や葬儀形態の多様化により、火葬件数増加への対応や多様化する葬祭場利用者のニーズに対して、南北両斎苑では適切に管理運営を行っています。
行動計画	斎苑連絡会議を定期開催することにより、法人内の連携を強化するとともに、内部統制を図ります。 【斎苑連絡会議における主な検討課題事例】 新型コロナウイルス感染症で亡くなった方の火葬に関するガイドラインの策定、友引日開苑の日程、斎苑利用案内の改訂、予約システムの改修、斎苑工事に伴う臨時休苑等の対応
具体的な取組内容	斎苑連絡会議は、事業の統括・執行管理を担当するシルバー人材センターの常務理事・事務局長、斎苑管理グループリーダー、及び現場責任者である南部斎苑長、北部斎苑長で構成し、毎月1回、斎苑の管理運営上の課題について協議します。今年度については、増加する火葬需要への対応として、火葬枠の増加に向けた必要な対応策、友引日開苑の日程調整、また、利用者の意見・要望等に対する対応、北部斎苑駐車場の円滑な運用方法、北部斎苑裏山緑地の危険防止策などについて協議します。協議の結果は、市に報告します。

## 実施結果（Do）

業務・組織に関する活動実績	【指標1関連】 斎苑連絡会議は、シルバー人材センター本部役職者と南北斎苑長が出席し、毎月1回開催しています。当該会議において、南北両斎苑の課題を共有し、1日あたりの火葬件数の引上げ、友引日開苑の日程調整、北部斎苑裏山緑地の樹木調査委託、北部斎苑帰宅困難者一時避難施設の指定、インボイス制度への対応、アンケート回収数増に向けた方策やいただいたご意見への対応などについて協議し、対応することで適切に葬祭場管理運営事業を実施しました。また、斎苑連絡会議での討議内容は、葬祭場運営会議において報告を行って市と情報共有し、対応を協議するなどして課題の解決を図りました。
---------------	--

## 評価 (Check)

業務・組織に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	斎苑連絡会議開催数	目標値	/	12	12	12	12	回
	説明 シルバー人材センター本部、南北斎苑による会議の開催数 ※R4～7年度の個別設定値:11(現状値の95%)	実績値	12	12	12			

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満  ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
----------------	---	---

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

毎月会議を開催することで、南北斎苑の情報や固有の課題等が共有でき、斎苑の管理運営に反映することができました。

<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">→</div> 本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A	法人本部と各斎苑長との定期的な連絡会議の開催により、苦情や要望、運営上の課題に関する認識を共有するとともに、苦情の再発防止策や要望への対応、課題解決に向けた検討を行うことで、円滑な施設運営と利用者の満足度向上に取り組んでおり、本市施策に寄与しているため。

## 改善 (Action)

実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	I	今後も定期的に会議を開催し、川崎市との緊密な連携の下、適正な事業運営に努めてまいります。

法人(団体名)	公益財団法人 川崎市シルバー人材センター	所管課	健康福祉局高齢者在宅サービス課健康福祉局保健医療政策部生活衛生担当
---------	----------------------	-----	-----------------------------------

●法人情報

(1)財務状況

収支及び財産の状況(単位:千円)		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)					
	経常収益	1,232,544	1,271,863	1,230,832		
	経常費用(事業費)	1,171,978	1,216,237	1,186,406		
	経常費用(管理費)	38,133	37,352	37,064		
	うち減価償却費	4,182	4,305	4,295		
	当期経常増減額	22,433	18,273	7,362		
	経常外収益					
	経常外費用	380		759		
	税引前当期一般正味財産増減額	22,054	18,273	6,603		
	当期一般正味財産増減額	22,054	18,273	6,603		
(指定正味財産増減の部)						
当期指定正味財産増減額						
正味財産期末残高	259,457	277,730	284,334			
貸借対照表	総資産	519,438	491,533	503,890		
	流動資産	322,684	292,912	308,540		
	固定資産	196,754	198,621	195,350		
	総負債	259,981	213,803	219,556		
	流動負債	176,756	128,176	135,025		
	固定負債	83,225	85,627	84,531		
	正味財産	259,457	277,730	284,334		
指定正味財産						
一般正味財産	259,457	277,730	284,334			

主たる勘定科目の状況(単位:千円)		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
経常収益	受託事業及び葬祭場管理運営事業	1,123,501	1,165,043	1,125,823		
経常費用	委託費(事業費+管理費)	172,505	180,791	181,263		
総資産	特定資産	121,417	125,939	126,962		
総負債	有利子負債(借入金+社債等)	54,415	2,296	177		

本市の財政支出等(単位:千円)		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
補助金		54,525	53,622	53,265		
負担金						
委託料		131,530	146,944	82,626		
指定管理料		230,770	236,401	247,358		
賞付金(年度末残高)						
損失補償・債務保証付債務(年度末残高)						
出捐金(年度末状況)		10,000	10,000	10,000		
(市出捐率)		30.6%	30.6%	30.6%		

財務に関する指標		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
流動比率(流動資産/流動負債)		182.6%	228.5%	228.5%		
有利子負債比率(有利子負債/正味財産)		21.0%	0.8%	0.1%		
経常収支比率(経常収益/経常費用)		101.9%	101.5%	100.6%		
正味財産比率(正味財産/総資産)		49.9%	56.5%	56.4%		
経常費用に占める市財政支出割合 (補助金+負担金+委託料+指定管理料)/経常費用		34.4%	34.9%	31.3%		
経常収益に占める市財政支出割合 (補助金+負担金+委託料+指定管理料)/経常収益		33.8%	34.4%	31.1%		

法人コメント		今後の取組の方向性		本市コメント	
現状認識		今後の取組の方向性		本市が今後法人に期待することなど	
令和5年度は、葬祭場運営事業収益及び労働者派遣事業収益が増加しましたが、受託事業収益では、令和4年度で終了した市放置自転車対策業務や大手流通業の業務縮小等が影響し、前年度に比べ経常収益及び市財政支出の委託料が大きく減少となりました。 経常費用は、職員の増員及び給与改定等による増額、葬祭場運営事業における設備修繕費及び外部委託費等に係る人件費等の増額や消耗品費等における物価上昇による費用増などもありましたが、受託事業の減少に伴う支払配分金の大幅な減少や、退職手当の支給率の改正に伴う退職給付費用の減少等もあり、当期一般正味財産増減額は黒字を維持することが出来ました。		令和6年度は、物価上昇や郵便料金の値上げが予定されるなど、経常費用は大きく増加すると見込まれることから、令和6年度から企業、個人の発注者に係る受託事業の事務手数料を10%から12%へ引上げ、経常収益を確保するとともに、会員とのやりとりに係る書類の電子化など、費用抑制にも努めてまいります。 また、契約の終了により、契約金額が大きく減少した市受注に代わる新たな受注の確保に向け、新規分野の開拓を実施するとともに、市への協力を引き続きお願いしてまいります。その他、広報・PR活動の強化及び就業機会創出員等による就業開拓活動の拡大を図ることで企業、個人からの新規受注等を確保し、実績の増加による在庫補助金の確保並びに経常収益の増加に努めてまいります。		公共部門大口契約の受注が終了したことにより、経常費用・収益に占める市財政支出割合は低下しましたが、経常収益も減額となったことから、引き続き、契約金額確保のために、新規受注先の開拓や受注可能な業種の拡大に向けた、広報・PR活動の強化・工夫の他、技能会員の確保・育成、就労機会のマッチング等の取組強化が必要と考えます。また、社会経済状況の変化に対応した、事業のデジタル化推進等による、会員の利便性向上、センター業務の効率化にも期待します。	

(2)役員・職員の状況(令和6年7月1日現在)

	常勤(人)			非常勤(人)		
	合計	(うち市派遣)	(うち市OB)	合計	(うち市在職)	(うち市OB)
役員	1	0	1	8	0	2
職員	25	0	11	9	0	5

【備考】

●総役員に占める本市職員及び退職職員の割合が3分の1を超過していることについての法人の見解・理由

・今後の方向性